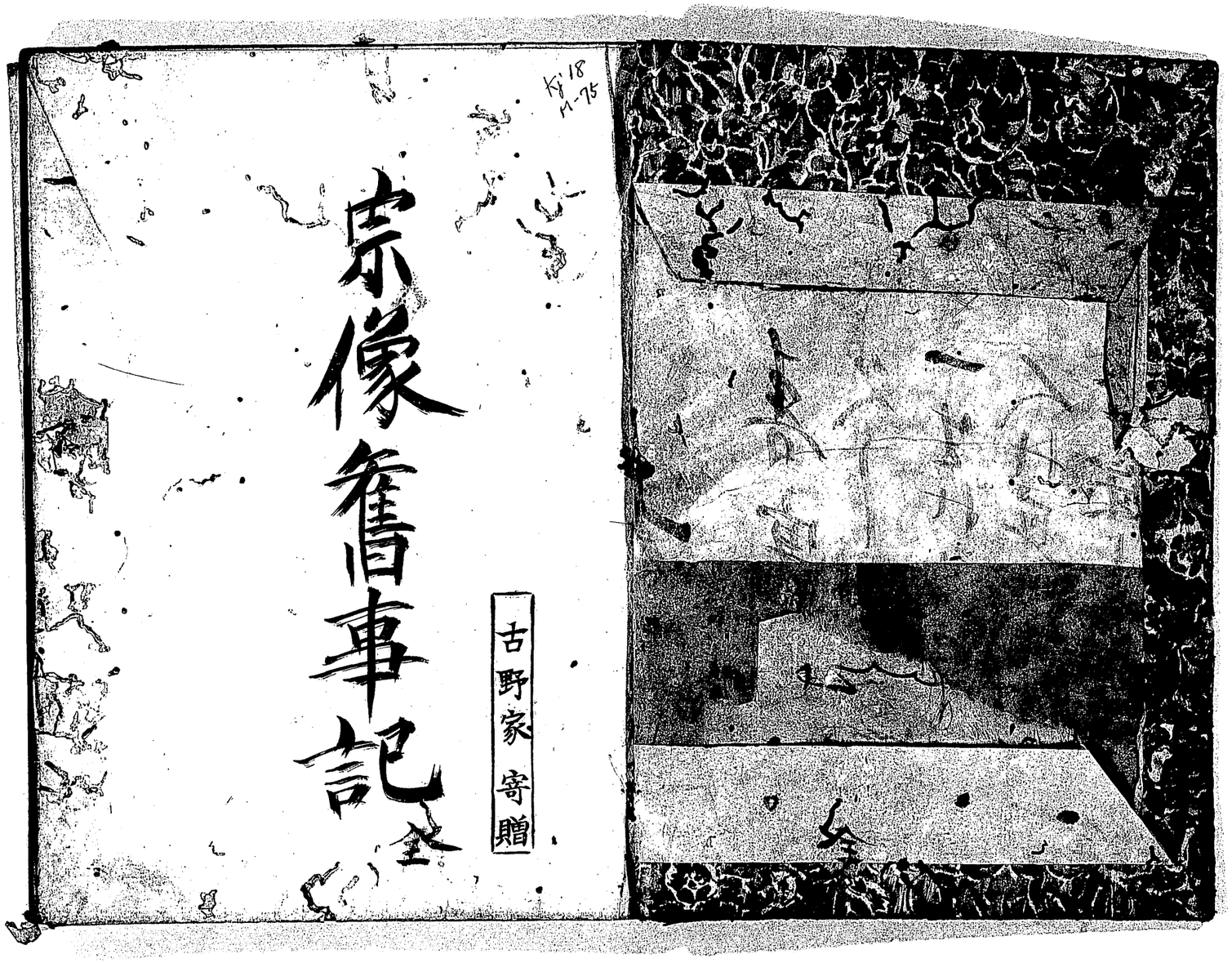
文書名	宗像奮事記 全　No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学法学部
撮影年月日	昭和56年 7月 16日

福岡県文化会館

KJ 18
K
7 E



Kj 18
M-75

宗像舊事記 全

古野家寄贈

目録

一 宗像大神宮乃神事
一 宗像大宮司之祖代変
一 大宮司清氏之者事
一 大宮司氏国代変
附り 傍正本覆一切経書写代
一 大宮司氏仲代事
附り 宋板石佛経渡り

国立公文書館
昭和10.1.10
162452
国立公文書館

一大宮司氏國四度社務を兼ねる
附 大友右衛門次郎氏能名事

一大宮司氏長詩歌の事

一大宮司氏俊の事
附 白山社撥を入御の事

一將軍御出陣附香椎綾杉社
并 甲冑渡切耳塚の事

一多々羅浜合戦附大宮司氏俊諸略事
并 立花上総右道赤星右馬之助を討取る事

一大宮司氏重の事
附 織幡神社御変

一大宮司氏弘社事
附 大内入道南蛮小貳教頼と蜂起する事

一大宮司興氏の事附 筑紫岬鐘社
并 小貳次郎政資又略記の事

一大宮司氏績の事附 黒川形部宗像に来る事

一黒川形部大宮司氏男を婚し山口に帰る事
附 大内殿を奉月次郎殿を宗像に参る事

一大宮司氏男香月次郎防州へ来る事
附り大内義隆自害并氏男隆光自害れる事
一黒川満寿丸宗像社家断絶と成事
一宗像社家氏男乃幼男成敗仕る事
一氏貞筑前へ来る事附り氏生隆春社変
一宗像の社家氏男社後室息女成敗仕る事
一氏男社信定死霊祟る事
附り土居四郎等殺害成る事

一大友社家氏十河十郎左衛門尉入洋婆乃堺を攻る事
一氏貞居城城考の山嶽へ移る事
一立花社堺を宗像を攻る事
附り仮屋山合戦乃事
一氏貞三社を建立附り吳羮成る事
一宗像社家氏立花の家臣と鏡乃稲荷山合戦成る事
一氏貞逝去乃事

宗像旧奏誌目録終

宗像大神宮乃御来

抑筑紫比國宗像大神宮乃御来
天照大神素盞嗚尊と誓ひ給ひし十柱の神を
取給ふて生給ふ所乃三人の姫宮なり第一の宮
を辺津宮と名付田心姫と申す因縁乃宮なり
第二の宮を中津宮と名付湍津姫
と奉りて沖津乃宮小島に垂迹し又世界を大陸
へ渡す則田島乃江口と離れること三里北に高く南北
数百町東西数拾町程高り第三乃宮を市杵島

御名を市杵島姫と申す神なりて沖津島乃宮に坐
せり西の小列島の時乃西北に坐せり
四拾八里乃程なり一つ島なり沖ノ嶋と云
又本湯津島と云ふ三女神を合て篠大東西南北僅数
里を隔て此三女神 地神七代 天津彦彦火瓊瓊杵尊乃
古御代に此国宗之本の六番と云所に出現し給ふ
御相貌先ず家し御肩より先に放光仍て
胸肩と云ふ其人皆七代孝霊天皇乃
時に宗像三所に遷座し給れり代乃
帝と仕る神と尊敬し給ふ社を建立し給
領地も余多寄附し給ふ孝霊天皇
公卿藤原朝臣尊敬し給ふ御神位を上
天皇に奏ひ給ふ世代乃為に物部小五郎
足利弓兵衛尉筑紫に流し給ひし時此宗像
大明神に祈願を掛給ふ御験あり
性浦に告げ給ふ宗像大宮司氏俊大軍
を率ひ御味方に参り多く異敵に一戦を抜
給ふ天下を治め給ひ給ふ

神明不測ノ霊徳偉ナル事ハ弥ヤ仰ク所ノ尊ク
変カリ難キ歟神ナリ
宗像大宮司ハ祖ノ支
宗像大明神八代ノ帝ノ法号ニシテ
ハ神位ヲ奉リ大宮柱ヲ建テ
三社ノ神殿ハ西時乃条社ニ
ハ生霊正ク人ノ擬テ神職ヲ定メ統世ノ
国ニ霊験アリ大三貴命ヨリ六世ノ孫嘉言
子宿禰ト云フ人是神職乃始リ才三ヲ隠光

宿禰ヨリ六代目ノ宗像君ト云フ人乃子
ヨリ其子孫代々神職ヲ勤シ祭礼ヲ
ヲ司リ是ヲ大宮司の高祖ト尊ム
大宮司清氏乃支
宗像ノ神職乃子宇多ノ天皇の御代ニ
宗像君乃子孫傳来シ四時ノ祭祀ヲ五月
酸醐ノ天皇ノ延喜十四甲戌年源清氏
夫二宮司トシテ宗像ノ姓ヲ名乗リ筑前ノ
為ノ世清氏ト云ハ宇多帝ノ法号ナリ

延喜帝は市井の中に生れ給ひ、世を治め給ふ事、
おのづからなるべし。延喜帝、位に登り給ひ、
天下を治め給ふ。萬民安く豊なり。一日帝神
泉苑に御幸あり。池の辺に立ち給へば、鶴
遊ぶ。鳥は近く躍る。魚籠を見給ひ、
顧みる。群れる者は其中に好物を拾ひ
出す。百姓は村里に住む。諸国を巡り歩き
宣旨を承る。村里に向かひ勅命を
飛ぶ。村里は絶えず。村里は翔ける。翔ける
里は絶えず。刈田は荒れず。居所は飛ぶ。
去る人は帰る。不思議なる事なり。帝の感
余り、好物に位を授けて、五位の官を
与へる。和俗好物と五位響きを世に
なる。好物は徳化に帰する時代なり。
我朝八百小及ぶ。此度天国に隠れなく、
万代国主の伝、使者の所望、安国の民の
改道、慶賀せん。使者の所望、御つ

拾ひ代貢を使（ホツカイ）国王に書を捧げ
武部を補に向へ下さば倭皇を拜し奉らん
支武願へ我国王乃命に倭皇武を
縛師に伴へ其容貌を写し朕倭皇
に献ずる思ひをなせ（しとは支多り）有
り是を遣帝聞き朕の祖髄必ず顔を
色異し大人形容貌を恥ぢ使に問ふ
意人支耶（ミニクキ）の一長上猴の容貌を絵書て醜
貌使に与に傳へ且は乃祝辱を与る
一に云く清氏に宋龍乃内侍と者しめく
帝乃御形代渤海国乃使に見せしめ使は
九拜稽首して御容貌を画せ己の国に帰り
一に云く清氏報告に一に国王と号して
初く公帰大臣洛氏有り清氏武部乃内
亜洛と帝位に代や伝へ人筑紫に書し
宗像に神に仕へ也洛ひく興る亜と有り
化を帝実と思石清氏宗像の大富
定めく筑紫に下りしを尚ひりけり

大宮司氏國乃支

所領 信正お豊一切經寄進事

大宮司信氏より十世孫孫大宮司従五位下摂津
氏雲と云人博学多識にして外神内佛を
已の道とし其上武芸弓馬にすぐれ
おのれ宗像乃神領籠り社國にして西方村にて
水田三百町古物祢宜職にて四拾町稲元色にて
四拾町須恵村にて三十丁稲光村にて又指丁荒田
にて五拾町豊前大宮住村にて四十丁壹岐嶋
にて拾丁肥前國嶋素村にて三百四
拾石八百七拾余町をもつて代官を置る元暦
壽永の兵乱に氏國乃戦先にて宗像郡
筑前半郡地押領して新田白山と云所を
堀と称し居堀を築き宗像氏神職に
と定しに武家に加わり爰に住居社國
古備津宮は神宮正藤内の兄にて安豊と云
浦に有り氏は仏者寺宗宗居を安豊一名を
色定と号し建仁寺乃末山禅師乃俗家

あり此僧堂宮殿乃至本朝に渡り文治五己酉
年に常楽寺小伝寺を松寺橋の法に著岸に女
堂則氏宮に見へ〻家敷に風俗仏法に般若昌
あり物語せられし氏国問く仏法乃功徳を
いく才一とゝゝや安覚答て法華経四功徳の文を
拾ゝゝ写経に功徳あり〻〻と有に
氏国感依に感と発一宇乃精舎を建立し給
番正ゝ号し〻〻安覚伝居し氏宮大檀那
あり写経に事始ゝゝ生に第西禅師家敷なり

拾来ゝ乃大宗経律論に正本持ゝ聖福禅
師有ゝと書写せゝ書也安覚法国伝授乃
事伝頭に掛ゝ諸人に向ひて写経に功徳を説
ゝゝ一紙伝受ゝハ書写し生ゝ文を八本写
文故ゝ此経紙一列に不拾精麗自ゝ来を法
後嫁ゝ〇を興聖寺に有ゝ毎日風雨に
なく国乃神廟ゝ孔大寺松堤ゝ小条に
喜道ゝ〻〻ゝ事伝頭に無ゝ廃行に間も急
ゝゝ形て三拾番手に経く清写に功手

[illegible]書經乃奥書記されたる

都計合六巻經律論　見流行者捻　六百二十八部

二千七百四十五巻　二百五十八帙

奉書寫外題　斷金結緣

大宮司従五位下宗像朝臣氏国

承元元年十二月十六日書畢

執筆但書寫　比丘　良祐

如件去比　置　[illegible]書奥に經とハ田嶋乃社に依

て文庫に遷く納置安置自己の願に彫に經花

而れ[illegible]世經乃ち護神と[illegible]れ[illegible]

依て世代に兵乱に時も散失せるものなし

回録乃災と[illegible]れ今に世迄も傳まり

類希に[illegible]此あ[illegible]の事ハ唐土迄

名と知[illegible]僧[illegible]

[illegible]人に事と載り[illegible]

大宮司氏仲乃事　所[illegible]宗[illegible]仲と[illegible]

大宣司氏國は第次氏仲と云ふ氏國子なり右の
氏仲を主として子として建久九戊午年氏國宣像の
社勢を氏仲に譲り上京に留りて内氏仲は
師光海に氏國は訴訟の有り氏仲を急き陸奥
氏仲と押て片桐城に籠城の氏國社勢は
再伴を建久九年に秋宋国より使者として宣像
江に着岸氏國事を子細と為て参詣
山科内大臣重盛公沿承に宋國は佛像を求
ぜられしと故有て宋帝是を禁ぜ
重盛薨ずると耳目善を為て石佛を送る
よりて氏國は法ひて世間半民悉く滅亡
ずるの傾あり一族なし忽ち宋国へ
帰り行れて宋國乃使者洞を流し
宋帝は志空しく波羅一麦と日本乃
世界控墨八重墨の霊なるを感面なり
此石佛は宗像に控き夜は方に縦を解て
宋國さして海りり氏國者に命き立なり
此石佛を神社乃侍に安置せり石は長

四尺半横廣二尺五寸厚九寸其他其間
無量壽佛其他諸像彫刻ハ悉ク弘陀經
全部ヲ彫刻喜捨表作善無量美盡セリ長サ
八尺ヲ六八四十八枚ニ表ハ模ハ天ヲ五ヲ立
の菩薩ヲ表ハ厚サ乃八尺ハ三ヲ九品ヲ浄土ヲ
表ヲ是文殊妙ハ者佛ヨリ今ハ世ヲ表
彫ル者ハ東ヲ華ハ世ヲ表ハ

大宮司氏國氏度社務ヲ及事

附リ

大友右衛門佐扉氏紋ヲ変

氏國歳已ニ耳順ヲ以四季ハ祭祀ヲ勤ム
給ハレハ氏仲ハ嫡子ヲ免シ氏重ヲ改名シ
社務乃事ヲ譲リ白山乃城ニ移シ其身ヲ片脇
乃堵ヲ移シ氏重天魔乃正為ヲ
氏重以深く恨みて内紛ハ陳以攻人ヲ社事
氏國佐耳ヲ逆ヲ押ヲ白山乃城ヲ攻め
給ヲ氏重防ク力ヲ及ヒ新に城ヲ居セリ
氏國止ヲ切ヲ文社務職ニ任ス
八十四代須德院北建保四丙子年ヨリ

大友判官従宣仕次男大友右衛門次郎氏泰也
神門乃新院ニ仕ヘ義士有氏國世人長
社務ハ事以譲ルトモ勢威惜ミ也給ヒ
ハ冬ニ頻ニ都ニ上リシ也ノ初ハ受明ル
建保五年ハ孝宗係乃神職ヲ辞シ
都ヨリ上リ市ヲ氏國力及ヒ八十ハ老翁
四度神職ヲ任市ル
大宣司氏長詩歌ヲ好ム事
氏國ハ孫ニ氏昌ヲ有嘉禎二年丙申ニ
氏國乃譲リヲ受大宣司ヲ知リ氏昌氏泥ヲ生氏澄ヲ
子二人有ル三郎氏経次郎氏業いつれも大宣司職ヲ
ヲ受ケ氏業ハ子以氏長ヲ子ニ氏世ハ博学多才ニ
詩以ノ高ヲ読建長二年中書乞
大寺山ハ捨ル詩賦
春日尋山色　登臨對海寛
折花窺二島　座石見三韓
木葉因風起　雪岑帯暖乾
謝生娯底事　吾偏愛樂安

宗像は神廟法樂乃歌に

ゝゝ早振（神代）ぶさしく澄月乃

曇なき世を見るに秋をはく

氏長は家に集有りなつ永緑すゆの面影に

宗像乃旧記神宝に丹焼失しく傳る所

稀なり氏も平生儉約を事として財寶に

富れ文建長三年辛亥第一宮第二宮中三宮

ともに神社を修造し神輿を新に制作し

教生會を行ひ同年に鎮國寺を建立し山

地堂塔塀乃城西に地堂を築く大宮司氏盛を諸郡

乃堂に置法師氏能を行徳乃城に置三郎氏正を

西郷に堂を置長男を白山に堂に居る四郎氏俊

を小く宗像に家督とせられる兄弟四人共に

一度死を大宮に酬に任せ恨憤棄無

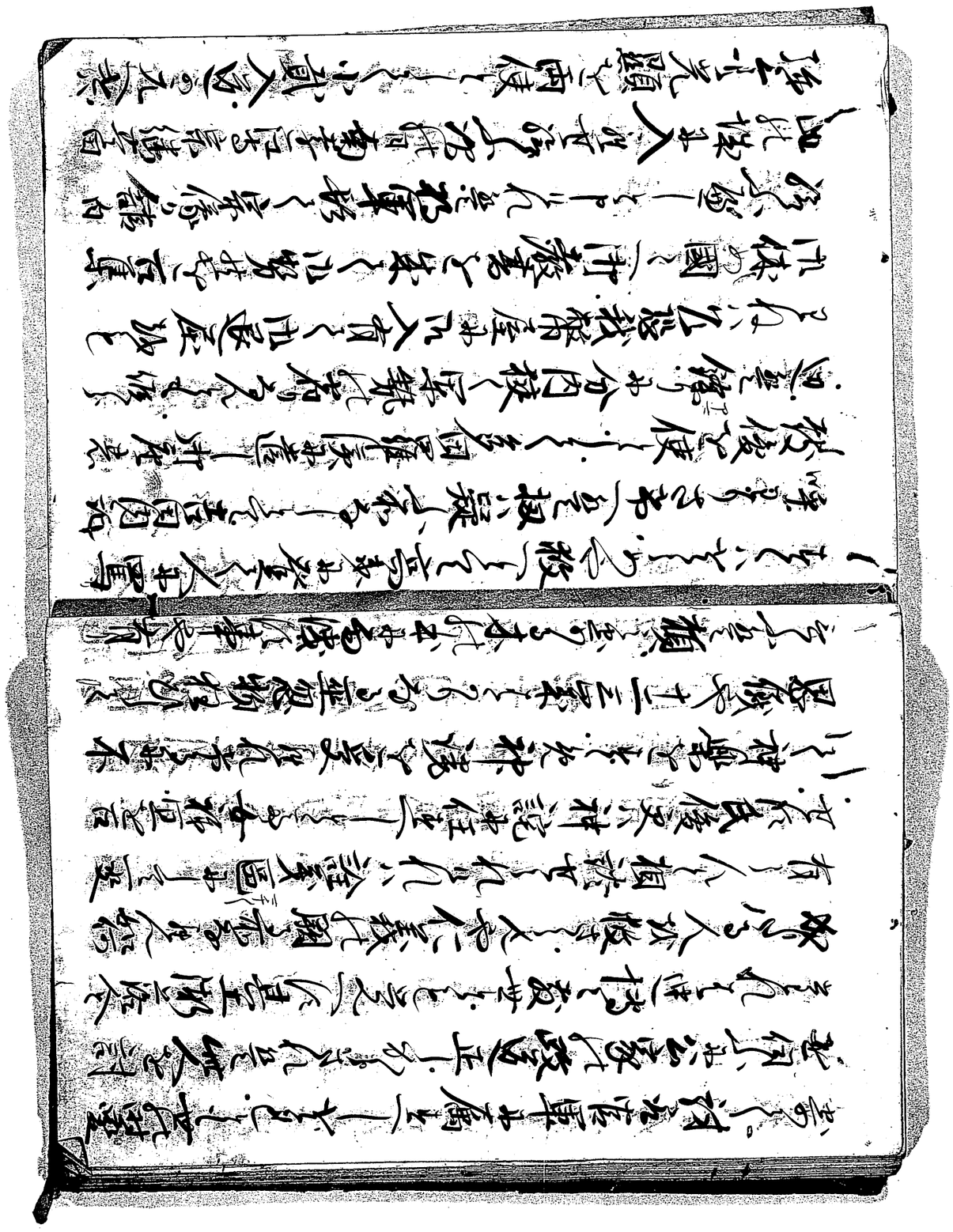
すらみの誤なりとて氏俊に文字を好こ弓

馬に道に一文武を嗜るに人命を氏長

類に是を忠しく宗像に家督とせられる

大宮司氏俊乃事

時に足利将軍義氏公白山の御社に入御ありし
長後三十五年にして建武元年正月に舍兄氏正公
聯事と受大宮司に任ぜられ家傳の摂津国
を専武つかせ給ふ其戦先多く
而領地を拝戴し此氏後乃ち社更
武勇と変じ神職の事に名を
四季乃祭祀を勤め変と厭ひ給はず氏後
名を心に社務に神職
の名氏のみを而已にして
大友鳴津を拝領し九国に内
官軍に属し建武三年二月に足利将軍
尊氏を新田義貞楠正成に対し奮戦
大友の進に依て筑紫乃方一統に市に国
多田に住し清盛の時に長崎に三
人に過ぎ大宮司氏後に
筑紫家臣に集り
合戦に討負今朝多田に帰渡に



されば中武太郎頼尚直時方ヶ参り市ヶ崎
始まり筑前の國人麻生出羽嘉摩香月
板鼻田族ヶ集れとく北面集る
将軍御出陣ヶ香椎ヶ綾板乃事
并甲塚渡坂切耳堀乃由来
爰日犯後ヶ國乃住人菜地掃部助武俊
世二の宮方ヶ参りれ小
武左衛門外ヶ國人馳加義兵ヶ参加坂田
往月種貞ヶ中道ヶ遠ヶれ武後驚ヶ
押寄ヶ責立ヶ俗ヶ
宮司八郎惟直原田秋月筑紫雲浦神田千葉
大村ヶ族ヶ従ヶ
二月五日先中武の策ヶ
中武入道妙恵八宗法ヶ頼尚ヶ相
従ヶ宗像ヶ
稲葉地ヶれ三日三夜攻ヶれ
堀内ヶ一族ヶ
参ヶ中里ヶ

思ひ切て今を是を限と腹掻切て失ぬ家代
普達然て多田羅源義信表を出る氏
に先回り社神社を築造し一領太刀弓
箭等を寄り献書弘納の為に直義朝臣を
始て仁木細川高上杉畠山大友小弐佐々
貴我石塔宋岡南家江寺いつれも上杉を按て
神納を将軍毋弘凝し給へ
不思議や神殿鳴動して白狐乃流鏑箭
鳴出て西北方へ飛行る尊氏を始て
諸軍勢是を宗像三神乃擁護者給ふ瑞相
乃一定今度の軍を味方に勝利疑なし
と勇を進んで打立ける乃軍を香椎
の宮に向ひ吸山に陣を取て天香椎に了
来詣して祈誓し給へ不思議や鳥一番
香椎乃綾杉に葉を二枝加へて直義朝臣の
甲に上を落し給ふ直義社杉弘取て乃軍
乃士気を打奮し給ふ富社に綾杉と是
神功皇后異國退治に用ひ給ひ実植し

給ひ板まで目宮及神木みな伐去れし
此板の拙くるる板乃美化粧みなし葉毎に
綾乃波有仍て後板とゝなり彼神三貴宮
歌
千早振　秀樹乃宮表杉乃葉を
物忘れぬ　ひかたにつの君を
と詠じ給ふ此板は支多り然ハ今日迄合戦
勝利疑なく再後板をかちしゝ故帰陣
献を立た瑞れるりと宣はれ公家氏を始め
法皇勢今朝宗像に神乃流鏑乃事文秀雄
乃神に告奏以頼母しとて勇おいさんを
出立る直義朝臣を匠手に大将軍にしゝ
五百余騎小武郷尚先陣を打立此度菊池を
親を討とする支るれハ二世三世菊池し勝
度せんとて勇士を仁木細川を上杉畠山の
一族相従ふ直義朝臣を多田源氏東宮
殿山に陣を取り伺を立て待ふ小武の家臣
太宰二郎天満宮に社人大神但馬光重と云者

東國勢の奉門者と定られ先以坂井郡を
直ちに新田義貞法師丸の養子に是を
と云れたる所以なり甲塚と下度又牡丹
て小坂是一ツ也三韓を發し給ふ時仲哀
三韓一軍を發し給ふ時仲哀
云れりなり牡山とて湖甲坂云也何乃坂
湖渡をめされしとも今あるを甲塚鎧坂
名所中度坂又小山と云也切耳塚とも
是皇三韓なりて討反れ歟乃職と一所

納る所なり彼前海七年浮ると云
渡と彼牡平浮ると程五十余町あるを以菊沢
箱崎志賀原なり陣ゆるく仲哀天皇場と
殘しなり出て戦ふんとの事なり一名潮
滿時を渡る所なく仲哀坂前也者て湖
要害と云なれあるなり岩来る坂山行度
なり一定時方れ勝軍なる一ツ上られ公美
敗兵彼後なり隨ひ志つまりと称て音を七度
也小熟と見せる控へ給ふ

多々良浜合戦附大宮司氏俊落略

並宗長右部右近赤日生右馬之助を討取事

猶手ゆかぬ宗像大宮司氏俊右馬之一族より入道

二郎原氏西の氏新氏正行服部吉當氏人々宗長共

石松和泉惟俊右部右近氏晴大和主税之助

氏氏吉田内記鼓俊を始として三百余騎浜男

明神社後の浜迄ゆかれ小松原より陣を取大友治津

多郎小石八將軍氏冲陣を守護し五百余騎を

番帳と為し二番浜より間の陣を張る當山陣

顯氏上杉伊豆守重秋を始大将として麻生

山鹿右馬之介内田杉殿田氏者共相從く三百餘騎

鐘坂乃東北の搦手弱々人々を横合の敵と

資人氏清為り氏俊家長石松和泉を呼んで

下れり五三日手こそ白旗二引の

赤旗を揚て或は松原に猶ゆかれ一段々々

軍士に備る松ゆかれ墨く大勢跡ゆかれ

御ゆかれて他方軍士松原より先人を出

うて左右原に内ゆかれ備を立て多少を見せの

これに菓池の軍立己の勇まはしり故と侮る
菓性なりと八定て小勢と見あなし進て来る
我人〳〵喜吋一回に掛出て勝負を〳〵と下知
〳〵に静り布陣を着もせに菓池掃部助武蔵
を箱崎に北条原に陣取て陸越前の赤日生左馬
之助を先陣として阿蘇大宮司惟直代月
佐野の在真名田筑前前司種宗等を伯耆
新合其勢三萬餘騎にて控て指手に五軍
薬方千代と大将として大村純忠肥前玄蕃
神田北一族新合喜勢五千余騎多賀羅溪西地乃
海辺に控て菊池武俊代代を出して奏
北陣を固めとして五百余騎にて遣方蒲
〳〵と告れ八武俊を小勢と侮て頻に旗を
とりの多田羅北川を打渡り山北陣近攻付て
親波を上れ八直義新合八静りて寄とせた
爰に菓池の兵北中に黄瓦毛なる馬に乗て厳
の渡と着て三船三郎俊綱と名乗て大石力
と打振て味方北勢に三所に分り進て山と

直義の和泉の陣に掛入らんとて曾我左衛門尉兄弟三人共に馬物具もかくてもいかに
進むべきやうも白石三郎に向ひ云ふやうは引之落
人と一反ばかりとうかれ加賀ばかりに馬をうち直義
落ぬりの白石起しも立に押へて首ばかり
けりと云名の二人利を得三人共に敵に
中に取入まと思ひ是と軍に始めしかば大勢共
中を掛入て戦ひ有仁木城後に迯の
五騎切て落し六騎に手負せて橋敵中

に成て誅られる小貳太郎頼尚は先日に戦に
親を討と聞て父は敵に成ぬ菊池と討ん
天と共に戴く事なしと聴花を郎三宮を
宮に立て面と振て命を義我に捨くして縦横
世間に誇り揉に揉んで戦ひ仁木細川
に成て人と小貳討とる去れと真先駆
進れ少し菊池の一族に進んで行程大宮司
八郎惟直俵りに手負て戦ひて深手に成て
引退ぬ其外に其多に属して軍兵三千余騎

多田四郎源満仲と二十余丁を隔てたりけるに、
鶴を放ち海辺迄追ひ来る松浦神田七郎宗俊大宣司
と終に三百餘騎にて控へたる源男の神の後を
松浦搭載る旗を風に吹靡かされて影を見て
有八敵勢二三万騎と見るし侍に叫べしと思
心なく一軍も出たしかは旗を捨て甲を脱て海
人に紛れ千葉万千代大村紀内兵衛大蛭兵
衛尉内田兵衛尉と見て大宣司氏俊敵
無引退と見て侍る者共討取れとて
喜先に立て戦ける千葉大村立て返し戦ひ
れども引立ち難き敵に習られ海教に
者数千騎大村心を極く思へども海浦に有る
軍兵勢に成られ手負死七八十騎に討る
れ今無是を限りと思ひ一つに寄て又一度
と戦ふと多く羅川に付く上りる所に返
戦利なくして河を極大宣司恒直の判定に
行逢て引り雲浦神田の降人に手搦手に
寄て多田四郎川を打渡して責

[illegible]
[illegible]の城越前[illegible]赤目生駒[illegible]助[illegible]立[illegible]
防矢を[illegible]射[illegible]味方[illegible]敵[illegible]居[illegible]
未種[illegible]ハ右[illegible]を[illegible]大敵を[illegible]
人[illegible]二十八[illegible]目前に[illegible]ハ将軍
方[illegible]軍[illegible]控[illegible]家[illegible]
[illegible]民[illegible]赤目生駒[illegible]助[illegible]目[illegible]
[illegible]合[illegible]敵[illegible]味方[illegible]軍[illegible]止
見物[illegible]ハ見[illegible]立[illegible]

按按[illegible]両馬[illegible]
[illegible]羅川の[illegible]川中[illegible]
[illegible]人[illegible]西国[illegible]氷[illegible]
[illegible]西二町[illegible]鎧[illegible]毛[illegible]敵
味方[illegible]
[illegible]
東北岸[illegible]
氣[illegible]力[illegible]箱[illegible]
肥後[illegible]落[illegible]

[illegible]討と称して肥前に国中を討[illegible]
[illegible]八幡田千葉大村[illegible]深山幽谷を尋ね隠れ
九州悉く将軍の出陣[illegible]に属し[illegible]
[illegible]を考へ攻め治め終に天下を治め給ふ是
偏に宗像に神乃御加護と大宮司氏俊に武功
[illegible]仍て[illegible]四領を給へ[illegible]
給りける是を弥宗像に家繁昌して諸
侯に列なり[illegible]

大宮司氏重に受所繊幡神社事

宗像大宮司氏重八氏俊に[illegible]を叙公食名に譲
受て社務[illegible]世人文学を好み詩歌を嗜り定家卿
三月五日繊幡山に於て[illegible]の繊幡に神社を詣給ひ
神職高向民部と百[illegible]当社乃来歴を尋給
[illegible]向東[illegible]当社に神[illegible]神と[illegible]八武内宿禰
[illegible]国を治め給ふ時此所に[illegible]本朝無双の美地
[illegible]景を絶[illegible]
[illegible]所に葬り[illegible]
[illegible]皇に[illegible]武内宿禰

説ことく世俗に信ずる異國降伏の
賊を挫さ日本平安なる護神と成給へり
此社を建こと年号を記すに延喜或は則載る所の
織幡神社是なり乃ち海辺佐屋村山なれば山をこしはすもの
干れば月乃潟浜佐屋村山なれば山をこしはすもの
海乃中道の名有り沖の浜千鳥新屋の新田の
と大島四明寺と迄の廣乃浜を新田の
浜と見て唐崎なれば法花堂や神社清風
深しる浪なれば蓬莱山なる蓬乃島波の
若し大臣乃名乃なる故乃磨為や浪乃名残
残乃寄浦なれば浦や寄乃離誰なくなれば
松の風の齢や生乃変他の國をも治め越
君の勅に背かれば宮居久しく推浜いはと
無人恋慕墨しく名残を目れば下の弾し度
ことく候とは申も面白く語りれ無氏重感を
催しく詩を賦せり
織幡何爲羨仙臺　靈德吹傳武内風
山下岩根連北直　海涯石壁向西嵯

片帆来住響灘浪　孤雁朝翔築浦雲
幽賞忽閑無外妄　眼前盡出一寄峯

[illegible]と雖も流るゝの如く書法ひ言向民教の祢原
[illegible]与へ[illegible]向の社[illegible]帰法る性氏重れ氣性
寛仁かしく改道正しれ無事[illegible]も弘盤四
帝り世間四海潛く太平を唱へ[illegible]れ八三神の社を
建立し絶なる神事以行とり

大宮司氏弘れ東
大内入道南栄小貳教頼と蜂起れ変

氏重れ子を氏忠と云ふ氏忠れ子を氏顕氏信と云ふ
何れも大宮司職と成氏信れ子以氏俊氏弘と云ふ
文安元年十月二日大宮司職を宋楫津も奪所
[illegible]申弟る大内左京太夫政弘か屬しく軍談
評定れ魁主と成りく九國乃事を司り市る
爰に文明元年小貳教頼對馬守太宰
府か来り回領を掠る大内掃部入道南栄と
撰し合くく九国を押領せんを謀市る三時大内
政弘も京都か居[illegible]て筑前れ守護代陶越前

弘獲、未十五歳なれ、防州山口に在居し、虚子
家に南蛮入り、豊後に渡れり、国に押渡りて、小武弥
助と云ふ者、内応せり、惟澄、宗像大宮司氏弘
幾月三郎、千手信濃守、使を遣し、一味恩
賞きたし、云ひ出せしは、内応恩顧
の人、多れば、返答なしと及ぶ、杉、陶、筑前守、
弘護、長門、国、押渡り、筑前守、若松に滞り
居れば、麻生豊前、同山城守、夜襲
を以て、香月、吾郷、小倉、杉、押渡、
豊後、国、柳ヶ浦、押渡り、長岡、宗像、
大宮司、氏弘、神社、
参詣し、箱崎、陣を、夜、彰、長慶、
原田、左衛門、治部、時枝、進士、大夫、公連、千手、信濃、
早馬、数、しきり、去る、八日、大内、入道、南蛮
豊後、国、柳ヶ浦、押渡り、長岡、宗像、
杉、押寄、攻戦、ひ、れ、南蛮、力及ず、小武、
一、四、五、人、と、逃、行、多、頻、に、詫、攻、れ、
化、物、見、る、人、多、獄、に、池、に、捕、入、る、妻、子、
害、殺、後、詫、辛、悲、く、迫、教、致、し、夜、と、

けり陶越前守もとより力を合はせて文武小武を攻め
ふ箱崎を拒ぎ國分山に陣を取る内山乃
味方の人々を誘せられ宗像大宮司氏弘方
に情を通ぜしかども武久肯ぜず小武久肯ぜず
今時を待つて回領を来り勢以滝ノ口
に有徳の士卒の有りし牡大熊あり内山の
味方を攻めんとせしかども誰ひとりとも応ぜざ
る内山は進退夜討しかく攻寄せ来る
如何と有りれば石松許斐吉田吉田
其夜乃月いまだ出ぬ先に押寄せ鯨波を挙げ
内山は城内の兵を軍兵所に支度を初むさきに軍
兵を引き物かしに雷鳴り風吹き雨降
物具も持たず武士を人とるし或は四領の土
歳も捨て刀を木に掛るしの業以持ちる野外
うれば宗像陶の大熊向ふきるに叶上陶也
京先に掛る掛く路行れ兵小武教頼
一戦も及ばず其夜兵太宰府の社頭に者

[illegible]文對[illegible]れ[illegible]陶越前[illegible]弘濟[illegible]
經濟城ハ在前[illegible]九國潛ク渡リ[illegible]
大宰司興民[illegible]
第三小武次郎政資文蜂起[illegible]
宗像大宰司興民[illegible]前大宰司民弘[illegible]二男[illegible]谷兄
民部[illegible]壞[illegible]文明五年仲冬二日社勢[illegible]
大内義興ハ屬[illegible]淳[illegible]一家の親[illegible]
[illegible]れ[illegible]時興民[illegible]領地ヲ巡見セ[illegible]
[illegible]海[illegible]面狀見渡[illegible]海中ハ沈[illegible]

[illegible]ヲ見[illegible]
[illegible]在松和泉ヲ民実吉田[illegible]
民明ハ[illegible]領内ハ土民ヲ班集ノ世[illegible]
[illegible]れる石松吉田先[illegible]人ヲ
[illegible]長殺ヲ計セ[illegible]武文八[illegible]ハ同ス
教[illegible]ノ長ス三尺余[illegible]
大[illegible]ヲ[illegible]ハ加賀[illegible]
蟹三人ヲ入[illegible]の[illegible]ヲ拔[illegible]龍[illegible]本[illegible]
悪魚[illegible]喰殺[illegible]奇[illegible]

中ゝ立ゝき業為ゝ仕中ゝ石松和泉ゝ下ゝ
ゝりゝ小牧ゝ如ゝ小民乃方ゝゝ不願ゝゝ大漁
呼集め立業陸ゝ近国ゝ漁時ゝ
ゝ蜜人ゝ格ゝ海ゝ網ゝ拘ゝ魚ゝ捕ゝ
入魚ゝ悪魚乃害ゝ多ゝ魚ゝ海ゝ入魚ゝ
仕ゝ小船中ゝ討教ゝ切ゝ者ゝ
ゝ教ゝゝ悪魚乃餌ゝ同ゝ
ゝ蜜人ゝ後ゝ
ゝ縄ゝ
ゝ悪魚ゝ
悪ひゝ仕ゝ縄ゝ仕ゝ輪ゝ仕ゝ
乃ゝ松ゝ土民ゝ
今迄時天保ゝ
ゝ起ゝ悪風震初雷電ゝ雨ゝ車軸ゝ
流ゝゝ目前ゝ船三艘ゝ縄ゝ張切ゝ
何地ゝ見ゝ
悟ゝ覚ゝ
ゝ蜜人縄ゝ押切ゝ
ゝ元乃如ゝ時天ゝ

面を陸にけるる物を浮んなる文いの多事
吹うんと法人所を冷に取て桂浮乃蜜入海中
に飛入る世間を夜る上り吉国飛弾守上使に元
弾を受る是を見れば老翁に假面をかぶる有る
則是を以真民を居りれば能く偽面を見分る
海底に幾千代の流れより夫人裏表を蛭れ
分る世有る興民則宗像宮に祈る神
賢と世分れる不思議生りる千年を経る採世
流れ出いつ代れる有ん居生り渡せし時

仕浦に着く船覆し壮達海底に沈む故
世所を流れ岬と名付り彼正三位重れ世を
寿乃流れ流れ生流れ来れ
差路と浪に幾世を経ん

と詠りし浦乃事なり昔永正三年二月廿日
小弐筑後太郎教頼子筑前法郎政資果年
流浪に出て九國に流り孤屋セし後代に郎
従筑紫上壮と助資方麻生興法郎と頁瞞光世郎

吉資通等失祖父武見四郎を感じ合戦に陸奥
国に政資を射る[illegible]呼ぶ[illegible]筑前守[illegible]内裏
陸奥に[illegible]四方に隠れ[illegible]宗像大宮司氏
早馬を以て大内義興に告げ[illegible]大内に助勢し
げるに應安年中に[illegible]末小武失度の蜂起せ[illegible]元
終に度々軍に利を得る事[illegible]諸葛孔明の
孟獲を七度擒に[illegible]七度免し軍略に異なる[illegible]代
小貳の敗軍を[illegible]命を助け[illegible]を扶る[illegible]
に暴乱を企つと[illegible]

かんの手裡に有と議し[illegible]長野二郎[illegible]山を打
立て長尾赤間[illegible]に陣を取る先陣に筑前[illegible]
龍ヶ口に[illegible]柱[illegible]十郎柱[illegible]改に五千余騎を[illegible]
[illegible]筑前勝尾山に陣を取る宗像大宮司氏[illegible]
三百五拾騎目尾山に陣を[illegible]小貳筑前[illegible]政資[illegible]
上[illegible]麻生[illegible]蔵内山を是と[illegible]大内の先陣[illegible]
勝尾山に陣を取る[illegible]興に赤坂[illegible]在り[illegible]波
海[illegible]押寄せ[illegible]踏[illegible][illegible]合[illegible]三[illegible]
[illegible]勝尾山に押寄せ関を[illegible]作り[illegible]

いかさま帰参せんと法師に成て諸国を
巡り歩き薩州に有て筑紫麻生晴義と
先陣を進め拵立られ大内勢は
杉十郎八幡宮を築き世に隠れなき精兵
射手五百余人表に備へ
行る上に有るべき間竹を如く射
まくられ内へと猛き筑紫麻生晴義と
兼て覚悟を見へ有り去る代の乱
八幡世の宝を焼れ
思ひ切て小武

一豊前国の内に城を取り
根流に危く見へ
目尾山盗人の森より
小武弾正
けり大内勢眞赤なる
先陣を
城を
大宰府
古城則五十金
杉十郎
士卒
宗像大宮司興氏三百五十騎
宗像
小武
大内勢
長門
国乃位人
原
資綱

対面に及ばず麻生左近将監元貞を宗像の家臣高
橋藤右衛門尉晴義を召して助資方へ
相渡す即ち対面の儀を彼を寄府の小武蔵の代の義
兵衛尉惣を揚げ終日一度も勝負なし資方
出羽守宣義赤旗をなびかせ小武蔵を
度毎に宗像大宮司代戦死をなし帰る
大宮司氏績は夏川形部宗像一族の夏
興氏は左氏佐左氏佐は二人有り左即氏績
次即氏明なり永正元甲子年仲冬に氏績社参の
命を受け博多に号波佐太友入道宗隣を召し
国に対し出国中大宰府に其身一族に嫡子
に大内殿に軍国東大夫田北形部氏生左近貞延を大
将として統帝は国を攻め田川越をして先
毛利法実を攻れば一族を引き毛利源八
郎は甚だ烈しく烟は城を攻れば香月
兵部大輔真則は石を結び城陣屋根に引籠る
花は尾崎と相良を迫り氏佐の居城多の氏佐
防州山口に有りて留主なれば城攻に及ばず

新田義貞山陵荒廃ニ及ヒ義貞ノ子義興麻生左衛門尉隆重ノ
奉シ等ノ輩ハ北朝ノ士ヲ賀茂ノ諸麻生ノ内寺隆盛
ノ攻ル所ニ一日一夜ハ防ギ戦フ多勢ニ叶ハス宗像
ノ一門ハ多クノ人ヲ失ヒ海辺ノ内浦渓ニ歓ヲ凝ス
戦ヒ敗ル力ナク海蔵寺ニ入ル妻子ニ自害
ス則国ノ諸ノ人民生ノ処ノ貞政ヲ諸主ノ
主賀千丸ヲ領シ国北田原宗像ヲ攻入ル
二千餘海浜ノ諸ノ諸主押寄ル諸主海浜ノ寺
氏章能ク防ギ戦フ大勢押寄テ攻レハ

城中モ危ク見ヘシ而ルニ氏綱氏男兄弟喜勢
五百余海辺ノ出ル出ル諸中ノ力ヲ内ノ当
ノ貝螺吹鳴シ諸戸ヲ宗ク討ル平ノ長勢ヲ
ヲ見テ帝後ノ歓ノ友囲ノ叫ハシテ
ノ諸ノ氏綱不ル名ノ敗ル軍ヲ逐ヒ
アリシ動ハ国ノ諸ノ打ル生宗像ノ在国ヲ
ル人民ヲ徑ル或ハ海浜ノ諸ヲ攻ル領分ヲ
ノ敗ノ未ノ伏ル思ヒ入ル若松但ノ当秀解
伊豫守益勝ヲ両使ヲ大内義隆ノ壮由ヲ

昔義援兵を乞ふ長上然る為に大將之人宗像
遣し置れ家を傾け殘れ悉皆滅亡し之赤西
邑三面南右物神偏之者下と名殘乃悉く軍
敗すること能はざれば義隆聞及ひて宗像を
年高家に屬し戰忠盡に事淺うして自殺感
他度兩使を五市に遣し返事有とハ西使を宗像老
中使を遣しと云返事有とハ西使を宗像老
帰りて義隆則黒川形部少輔隆像を宗像老
各殘乃城に籠れハ大友兵を宗像攻寄る

黒川形部大宮司氏男以婿として出る
大内家を香月次郎を宗像老
形部黒川形部を宗像入て權威を振ひ
大宮司氏續中要領して年月を経ハ氏漢
の一子を政氏と云天文二年大宮司に職と称
し氏續再大宮司
集相を早世し氏續
集相は是又黒川の下知を宗像に名松
、加賀守尚興泉斐守を氏兼石部四郎を惟安
吉田土佐を氏教打寄り氏漢に諫言仕る人今黒川

[illegible]中無変の心は[illegible]外れて変[illegible]り[illegible]出
[illegible]る[illegible]芳隆公[illegible]り[illegible]怒[illegible]り[illegible]
滅亡疑[illegible]年齢[illegible]耳須[illegible]
[illegible]舎弟民男[illegible]大言司[illegible]
[illegible]剃髪深衣[illegible]後世菩提
[illegible]有[illegible]民男[illegible]黒川[illegible]
[illegible]永く[illegible]繁栄[illegible]
理[illegible]盡[illegible]民績免[illegible]答
[illegible]天文五年二月三日[illegible]法

[illegible]哀[illegible]入道[illegible]
[illegible]同年五月[illegible]民男[illegible]方[illegible]黒川形部[illegible]
[illegible]方案坊喝[illegible]形部[illegible]民男[illegible]智[illegible]
上[illegible]宗像[illegible]変心[illegible]
[illegible]芳[illegible]思[illegible]久浦[illegible]
[illegible]催[illegible]大内殿[illegible]
[illegible]防州山口[illegible]帰[illegible]大内殿黒川[illegible]宗像[illegible]
[illegible]者[illegible]無[illegible]やと[illegible]
[illegible]諸[illegible]香月[illegible]浦[illegible]次男次郎左衛門[illegible]隆光[illegible]
宗像[illegible]名[illegible]諸[illegible]五[illegible]哀[illegible]入道[illegible]入[illegible]

押へも心にて現ゆの事無之立花高橋道雪
粕屋表より宗像氏貞を西ノ城に入
まいらせ候秀月を西ノ城に移し候宗像
是非に不及西ノ城を明候て御帰有とて案
大宮司氏男香月次郎防州へ参る事
附 大内義隆自害并氏男隆光自害之事
仁
天文廿年八月廿六日ニ宗像大宮司氏男香月次郎隆
隆光か為立同九月十日山口ニ来着候相良遠江守
武任と云者を以参勤の御礼申上度由申入候

同十一月初入来ニ築山ニ御宿ニ而宇老代国来勤神妙
なりとて大友鳴津の軍謀すとて九国太平の事を
祝し御機嫌殊に宜しく毎人共ニ路次の労を休
めとて其以後ハ仁和とて氏男隆光ハ己の旅舘ニ帰りける
然るに翌月同月二十六日ニ義隆の家老陶尾張守晴賢か
子息五郎隆房義隆を恨ミ候事有て謀逆
心を企て山口を攻入して義隆を誅せしむる由也入候
宗像大宮司氏男香月次郎左衛門隆光ハ五百余騎を
引率して千把の嶽ニ於て向ふ吉川甲斐守江良丹後守り

[illegible]攻戰ひ相いまとけり[illegible]掠手[illegible]戰彼れて
[illegible]巢山[illegible]御所[illegible]火かい[illegible]陸奥[illegible]
[illegible]後[illegible]黑川[illegible]使[illegible]今[illegible]
[illegible]宗像[illegible]月[illegible]連[illegible]長門國[illegible]
[illegible]軍[illegible]黑[illegible]大寶[illegible]
[illegible]澄公[illegible]國[illegible]
[illegible]害[illegible]兩人[illegible]力[illegible]失ひ[illegible]大内[illegible]
滅亡[illegible]故[illegible]公卿[illegible]人[illegible]皆討死
或[illegible]自害し[illegible]我[illegible]武[illegible]生れ[illegible]生き[illegible]

誰れ面を向へさしてあ人[illegible]腹[illegible]切り[illegible]失[illegible]
表れ[illegible]事[illegible]

黑川鍋寿丸宗像[illegible]
大宣冒氏男[illegible]長[illegible]自害[illegible]由[illegible]
[illegible]
真安許斐氏章[illegible]氏續[illegible]長[illegible]呼く
氏男[illegible]七歲[illegible]女子有[illegible]男子[illegible]今年三[illegible]
宗像の家[illegible]誰[illegible]
盛長[illegible]八良長[illegible]三度白山[illegible]

[illegible]り宗像氏家を相続し[illegible]溪[illegible]れ[illegible]歳已来
七有余及び明日をも考へず[illegible]を扶持
世乱れ幼き子なれ後見なき雖[illegible]最上大神宮に奉
宮雖り勅[illegible]さや陶入道全善の深[illegible]度を老し有内
及び末葉に人数[illegible]受女子を妻せ家督と定め給
[illegible]ハ家臣世侯に同し長部越後守
大和治部少輔秀政侯と[illegible]山口[illegible]全善の
深[illegible]ハ宗像氏の孫有者と老
[illegible]黒川形部の子なり渦書丸と[illegible]生年十五

家族男子有是氏男に宗乃後者乃光[illegible]世人達り
者なき[illegible]に生[illegible]る子なれ[illegible]渦[illegible]者
[illegible]て元服とさせ[illegible]陶氏貞と名乗
せ是を宗像乃[illegible]大宮司職に任[illegible]
有りしハ良善入道と[illegible]臣[illegible]ハ[illegible]平[illegible]
[illegible]

宗像氏家臣氏男乃幼男を殺[illegible]
左馬乃尉氏貞阪に[illegible]
[illegible]有り[illegible]人全善に告[illegible]宗像氏家臣

主君と共に不道なり幼稚なりし氏男[illegible]
[illegible]を殺害し是を[illegible]人[illegible]人多[illegible]仍て壮後
一変して氏貞を呼寄せ酖毒を進め殺害し
其後因茶湯[illegible]全美を憤怒して使を宿[illegible]
[illegible]を[illegible]後室女子を[illegible]流し
亀一三歳なる男子を[illegible]刺殺し[illegible]若狭守
[illegible]八内山[illegible]を攻殺り[illegible]残[illegible]討殺し
[illegible]再三[illegible]し[illegible]宗[illegible]
威を恐れ[illegible]美を隨ひ後室女を[illegible]流し

流[illegible]は[illegible]一山田村[illegible]
臣[illegible]侍女三四人付隨ひて出る草[illegible]を[illegible]
入亀三[illegible]なる男子を[illegible]吉田飛弾守[illegible]
斉[illegible]吉田の領地[illegible]吉川[illegible]
[illegible]乳母[illegible]抱せて[illegible]
乳母周章[illegible]
[illegible]刺殺し
[illegible]吉田の不道[illegible]
[illegible]其怨霊[illegible]
建て山口[illegible]祭り[illegible]

氏貞筑前に未だ変所に在生後参れる事
正応文正二年正月十五日氏貞筑前に下向せり
義弓氏後矛多治修理之進氏兼防州に越く其
勢百余騎にて行装今日を限れる生立山
口に打越全美り謂へり全美立出く後安
子を豊浦の流に男子を殺害せり段宗像の立
入道の射に出美と励れ喜悦浅からず
然て氏貞秋重君と作り山鳥新五郎
始て百五十騎を相添て遣はす軍兵数合嘉勢
三百余騎宗像方へ急き来る豊前国に縣を打
こと内に珠主丸生九郎貞延と大友に居る
宗像勢今日敵方を面にして見合に見通す
ゆへ僧屋形様に分有ましいさ打出く諸源
一家を一所に生勢百五十騎岡の松原に陣
とする氏貞是秋冨に秋月の首遣れ軍
勢八人を残て夜に軍神を祭る
殊に敵を小勢なるを主君を駐給八将に相撰
と云ひ陶宗像に面の使なれ八幡有軍なり

京方[illegible]攻[illegible]低生[illegible]叶[illegible]
[illegible]人[illegible]を節弓[illegible]弦を[illegible]降人[illegible]出
けり則国の[illegible]を[illegible]
[illegible]人[illegible]者[illegible]石[illegible]を賀[illegible]千[illegible]
宗像[illegible]領地[illegible]低生[illegible]後吉田[illegible]
[illegible]低生を改[illegible]吉田[illegible]氏[illegible]
[illegible]同年二月[illegible]氏貞則[illegible]
[illegible]人社[illegible]威[illegible]人一[illegible]二[illegible]三[illegible]
[illegible]宗像[illegible]注[illegible]封[illegible]名[illegible]城[illegible]入[illegible]

良吉入道[illegible]渇[illegible]
向[illegible]師範[illegible]
受[illegible]同[illegible]三月二十日良吉入道[illegible]
[illegible]氏貞五十日[illegible]喪を勤[illegible]実父[illegible]
祝を致[illegible]

宗像の[illegible]氏男[illegible]後室[illegible]女[illegible]
天文十三年二月下旬宗像[illegible]全[illegible]媚
諭[illegible]右有[illegible]沈[illegible]使以[illegible]言[illegible]氏男
[illegible]後室頃[illegible]山[illegible]邑[illegible]在[illegible]旧[illegible]乃[illegible]

今年十七歳息女と共に両家老一同の相談
聞いの上婚礼を定め宗像氏を招き盃
氏貞を攻め亡ぼし諸士に言渡すべきの旨
を告げ渡る全義大に怒り後室女子無先遂く
男子を報一族の内豊後流に一族を渡せし
山田村に在置宗像氏に仕へ宗像乃氏男子
を生報一族の内佐り成人れ工夫して氏男子を仕
家を継ぎ人の変るを待一会天下騒乱の時
を見て出入道の老一族の内止の攻防に
仮初の事君に御と見一族の急き氏男に後室
面会子供を報一族の青竹に拘束一族八方
勢を押隠り白山城を攻破り一人も残り氏妻を
中村の中一族江良源五左衛門賢盛を
使に宗像乃家臣に命ずる宗像の群臣
石松但馬の病死に置きの中に浜崎氏
吉郎直安進出ずく是を定め家中に後を
全義西浦に出し是より移
中さく全義に出陣に乗り丈後室自害

乃心を知る者なり明治三年山田氏草庵を結び氏男
菩提を弔ひ浮世を疎し殺害一件国九郎
今日迄吉田花浮ち十五年間在
毎日其中祈禱を法華経讀誦一筋に
其中教一義を有る先生を尋ね十余箱
より帰り並に全美を其子細を有れ侍
男子に教ひ實を後室乃隠謀を
虚実を探ると中に女子に事を
有る共後室を名高倉一箱一書
云りる如吉田花浮ち在住出て国九郎懐
中に後室を佞置殺害致し網を下金美疑
を立て国九郎助置し迄山口を出奔
ものなり免角牡事後室の出耳大多一方
に我子今ま後室に賜一年三年に帝国
一ものを教へ一罪所迄れ雑一答を如何様を送
立迄一牡花浮おかめ八金美托命を隠ひ氏貧を
主君一生る上に別を主乃一後室身女を利
報一金美を首を見を去年国九郎を

事を直道に入奇矛れ神秘見と思ふ

社務七十九代忠後宗を思ふ

遂に拝殿見（ホルル）る上部日向書道に出る

推ふ様子の中に氏貞公に手紙を部屋に

大将れるの為に明日牡儀に上る大れに

出来ふ然る（しと云れ）を各牡様方に

三月廿三日に浜に各宿に帰れ

扨吉田兎洋に色々書れ弟岑寿玄番

分る上りの為今日石巻宿に滞在

一族遠近遠方の上に多く老に和泉に

先に伝庵に医心に羅一文明日氏貞公（如伝板

ふの上に来る然れ我ふの身れ上大事出来に

一金霄山田に邑ふ事り後室息女に報に

其方に来り遊と云れに玄蕃殿に

大事に思ふ同意明日に所に

に兎洋の妻ふ年に五十ふ

兎洋反に上る者車有る

扨の伊吉に思に遊（ホ）に代に主君の妻ふ

報ぜんと思ひ[illegible]
力を添へんと一向に[illegible]
[illegible]滅ぶるとハ[illegible]
[illegible]ハ京[illegible]一存斗[illegible]
[illegible]知己乃友[illegible]ハ[illegible]
和泉[illegible]大老[illegible]ハ難[illegible]
先聖中氏ハ語[illegible]
不道[illegible]勘解由[illegible]
和泉[illegible]ハ先人七十有余[illegible]

何[illegible]人ハ[illegible]善思[illegible]
[illegible]理の至極[illegible]
[illegible]事ハ[illegible]
玄番[illegible]同道[illegible]彼山田[illegible]
朝鮮國[illegible]
彼門[illegible]
と云女房[illegible]
[illegible]
居[illegible]後室[illegible]

[illegible]上りる吉田花洋を峯蔵
明日豊後に[illegible]団[illegible]か渡海仕ゆ迄[illegible]
[illegible]利[illegible]出次[illegible]上[illegible]後室[illegible]
[illegible]是[illegible]花洋を[illegible]蔵
後[illegible]先花洋に向ひ[illegible]後室[illegible]頃[illegible]
[illegible]養[illegible]氣[illegible]国[illegible]
何[illegible]久[illegible]愛[illegible]
[illegible]養育[illegible]宜[illegible]果[illegible]後室
乃[illegible]懐中[illegible]氷[illegible]如く[illegible]短[illegible]

扨[illegible]御胴[illegible]刺通せ[illegible]噴[illegible]立[illegible]
[illegible]宜[illegible]来[illegible]峯[illegible]姫君[illegible]刺[illegible]
小[illegible]花見[illegible]小莊[illegible]月[illegible]女房[illegible]
[illegible]如何[illegible]事[illegible]
通[illegible]四人[illegible]十一ツ[illegible]両人[illegible]夜[illegible]二刀[illegible]刺
[illegible]

民男[illegible]後室怨霊[illegible]事

附 吉田峯[illegible]怨[illegible]夜[illegible]殺[illegible]
[illegible]事[illegible]夜[illegible]明方[illegible]来[illegible]即死[illegible]極[illegible]

取納の期を六十四日吉田花弾寺等書記
両人を石松和泉守に金美氏命ず
依て此和泉室姫君を報ず此旨大将氏
頼公言上致に一同くハ和泉守度と
同道相成由下れ尤と同一三人内而
此金美を仰付られ越前国法宗姫君
を報ず其旨を主君氏直忠義を称
故事中上れ法宗姫氏頼腹替れ
姫君なる共御然備居りかと金美

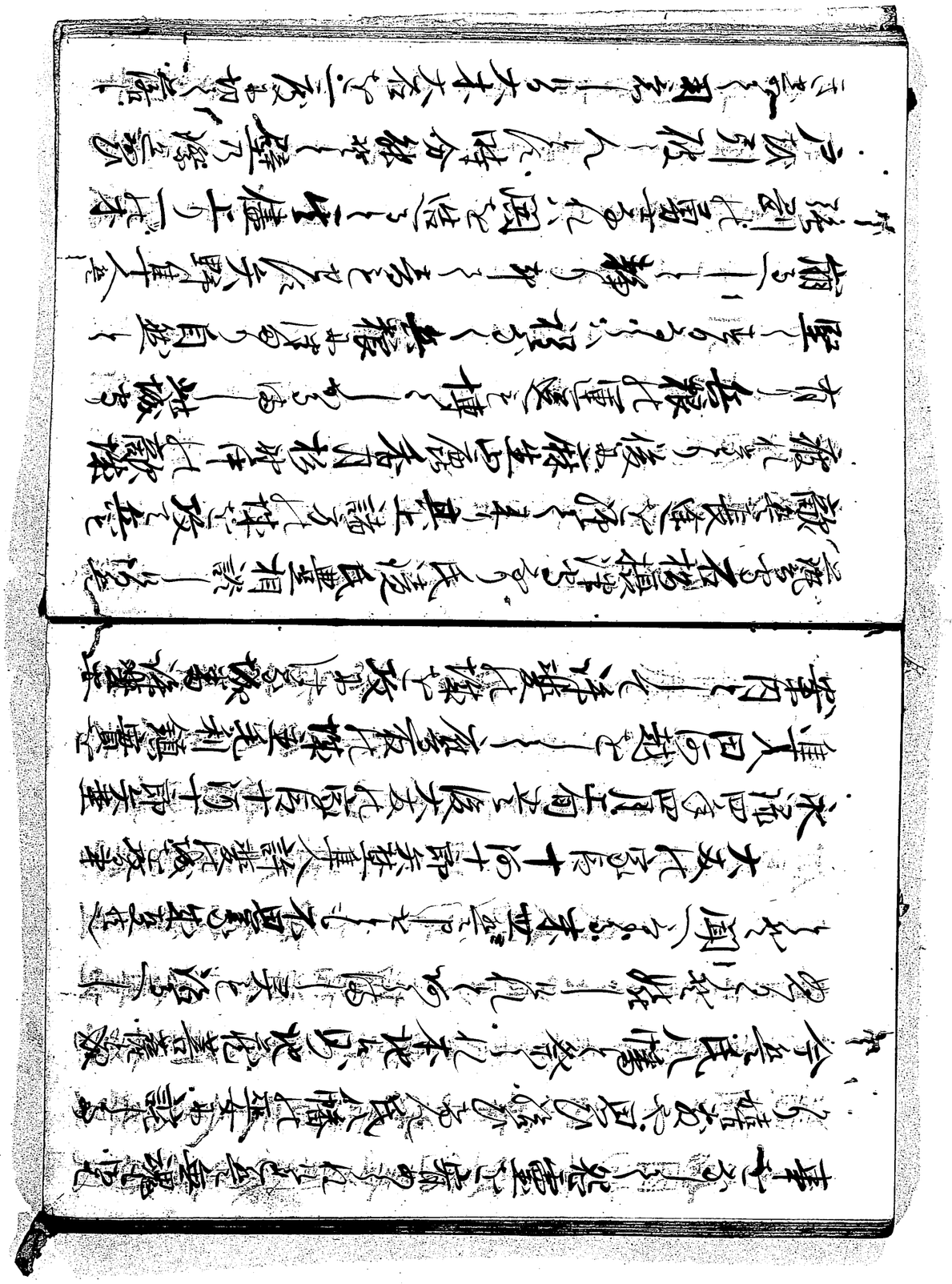
今迄差図しつる民負ハ力及た扶有
ふ事あるに付石松弾寺婆占器吉田氏に共増
福寺に葬り其り毎公榮林院妙国と号
姫君を心源院妙安と号し其り妙氏法
執斗ハ墓を築き相立朝是を見れハ二ツ氏墓
に彼と吉田花弾寺大に驚き鎮国寺を
住信法念と云ふ伝を招く此由を告く行念
其れ信と頼中れハ我に秘法有 霊を
一ツ吉生道に隆在せ一の宗を為る事有

一方に源左衛門大夫釜を鑄させ墓の上に覆ひ
其上に巷興を造りけるに邪術を行ふ長術未
終りさる丑の刻に髪を振り乱す女性の姿顯れ
霊後生の釜を忽ち破り法念即時に跳殺する
胸を通り出て穴有りと其夜吉田孤峯
峯に書き法念一両日胸より穴出来て心神脳乱
吐血して五人共に死る今山田の怨霊に為て跳殺す助をも
妻任孔に取り嗚呼痛やと叫び或時は我を

民男に浸入て沿り夫の胸刺れし苦しみ人の
男の知らざれば云曰り心神狂乱して十余日過て
是を掴み穴出来て忽ち犯ひ死あせしけり
元外吉田氏の一族峯氏乃一類小谷胸痛煩乱
して死る弘治元年正月廿三日山田の怨霊
中に動解由中に即中淪云しるべ八十日
花弾と彫琴に友達に後室姫君を教
を設しる罪逆に雖ども只今我命以夜
切に猶苦しみ即死に同年十月廿三日乃

物陶屋張入道金妻の夢に婦人幼女誘侍婦異
連々枕元上り立々京を宗像氏男の妻と我々
何れ罪有や讒者は実否弘安正応殺害
甚怪婦一汝を殺し其家を滅亡し夏
りり果しかの二月朔日に毛利元就に為攻
れ金妻自害し弘治二年三月二十三日に
氏男は妹十五宗に乗移り狂病発り
終に一群臣に角目りりは大悪不道は去式
我胸を取て壮苦し氏貞に思へし大神

宮は神職を化を力分し給る衣冠束帯
叫りり終に夜半に辛死し給ひ氏貞大
敬る給ひ弘治三年は春山田は妙国妙寺
御霊を祭る一坤乃山は林に宮は社を
建立し氏八幡と号して神事を化し且
毎月廿三日より廿四日迄を増福禅寺は本尊地
蔵菩薩堂立帝あり衆僧を集め法華経
讀誦をし給ふ幸に
る妙国妙寺地蔵菩薩は他に林稲は



[illegible]八幡宮領石を押領し大木を切倒し先陣五十
余騎谷底に落ちり[illegible]を見て[illegible]
[illegible]聊氏同じ軍を行ひ[illegible]
[illegible]一二[illegible]木戸を[illegible]
[illegible]八引立[illegible]豊後勢[illegible]
[illegible]引[illegible]ける[illegible]吉岡材[illegible]在家[illegible]時
変を伺ひ[illegible]戦[illegible]
[illegible]茅[illegible]五郎吉岡周之九郎[illegible]
[illegible]吉岡[illegible]

[illegible]来る[illegible]夜[illegible]城へ移[illegible]
[illegible]氏負[illegible]城を[illegible]山嶽へ移[illegible]事
永録四年[illegible]秋氏久[illegible]石松浦[illegible]
外奉行頭人を[illegible]
[illegible]偏僻の地[illegible]故領内[illegible]
[illegible]援兵を出[illegible]
攻取[illegible]
[illegible]地[illegible]要害の地形[illegible]神武天皇[illegible]
國[illegible]発[illegible]東征[illegible]日一神駱[illegible]馬[illegible]

御前を嘶さりかなりく壮麗なる赤馬と呼下りり
寺仏吉祝なり急き嘉祥の嶽城堅城
と世人と思ふ宣へ伊豆も壮麗なる同
七月下旬なり蒙古船共支拾く明る永徳五年春月
日なり城蒙古船大半成就しなれば十二月三日吉日なり
なる白山を立出なり寄り嶽なれば移なれる群臣
なれば山上なる山下なる赤なれ所口吉崎なる
高貴座を造り出なれば恰と京路なれ四条五條
乃過なるなる

立花城攻事

仮令山合戦乃事

髪を縅なる国船屋敷立花城主大友宗麟乃
股肱なる臣戸次入道道雪なる有る雪ハ者仁勇なる
三徳を兼なる人なれば縅市なる古を亜く東田積家
千手縅なる格を攻なる事度乃度敗なれ幕下なれ
肥前国龍造寺隆信を攻なる薩州なる島津なる大友
なれ九国争ひの時なる成なり吉左宗麟なれ大宮
司なる大内なる時なる山口なる系勅なる幕下

為一全滅ス仮ハ毛利元就ノ婿ト大内義隆ノ
長道雪田ひりゆハ先宗像攻ノ元就ノ義
ト陳主移ル即貫並ヒ畑ノ城主香月七郎經孝ノ麻
ノ陳主花尾ノ城主汲乃嶽ノ陳主ノ殺ノ子
ノ入道ノ業遠ノ子氏貞ノ陳普請ノ賊ノ貴
ノ弓ノ十分一乃役料ヲ以ノ民百姓ノ遍
役ヲ掛ノ領内衰微ノ根ノ之ノ時ノ長上
名有老ノ武勇ノ士ノ山田ノ怨霊ノ為ノ取殺
ノ長男ノ博多ノ陳ノ聖福寺ノ玄菴和尚ヲ
招ノ禅法ヲ修ノ詩歌ヲ好ノ故ノ京中ノ長
風ヲ靡ノ武事ヲ怠ノ長虚ノ乗リ宗像ヲ攻
滅ス

大山對馬守小弘和泉ノ由布美濃
ノ薦野三河ノ安部十時ヲ始ノ森原田吉弘ノ先ノ
永録十年九月ノ立花ヲ打立ノ飯盛山ノ
陣ヲ取ノ氏貞是ヲ聞ノ急ノ飯盛ヲ打越ノ進
ノ入道ノ高橋伯耆ノ重政浦愛安義ノ氏後
吉都右馬ノ助氏時石松但馬ノ米多比俊理ノ進
貞兼晴花伊豫守益勝吉岡九郎左衛門ノ婿

[illegible]合せ[illegible]勢三百餘騎飯盛山を押寄せ鬨の
先陣敵の陣を攻る事度々なれども攻入る事
なりて飯盛山に諸兵兵粮を運ぶ人と時陣に
取られ賊路(アクロテ)を塞ぎ一宗像氏の軍に限りなし
黒糸威の鎧を着て栗毛の馬に銀覆輪の鞍置
て名乗りて武士一騎駆出て高麗解内左衛門
と名乗りて先駆する日向三花老
人と見て宗像大宮司長袖舞帽子に面を隠し矢
倉号の軍の内人と喚呼て懸る由承り及
[illegible]神職の者に射の業立ッの立様の受て[illegible]
是神通に適矢なりし弦引射て放ッ矢を先
[illegible]原田源五郎の胸板掛て射通し後
[illegible]原田源助の冑掛の端を射通し
是を軍に始て[illegible]五郎の揉合て戦ひける日
[illegible]及ひ是小野和泉守法華を下知して日
[illegible]他領の陣を[illegible]不覚[illegible]急き引退き立花
[illegible]有れ共楚内新原[illegible]引退き立花
[illegible]陣に帰[illegible]牡丹討取[illegible]頸百十三

ら嶽に逆ひける故後に粕屋宗像なとゝ共に小若
弍が出しゝ年に戦止ざりけり元亀元年に両氏の
し房せ者に謀りて氏貞の妹をもらひて立花に嫁とし
め双方無事になりしとぞなり

氏貞三社を建立附り霊夢の事

天正三年乙亥二月中旬氏貞が老の面々に仰て宗像
許斐安芸守石松加賀守占部日向守など言て此年
再び三社建立の志有りしかども近年四海逆浪静
ならず依て戦に財尽きて空しく有るに今年先国錦乃

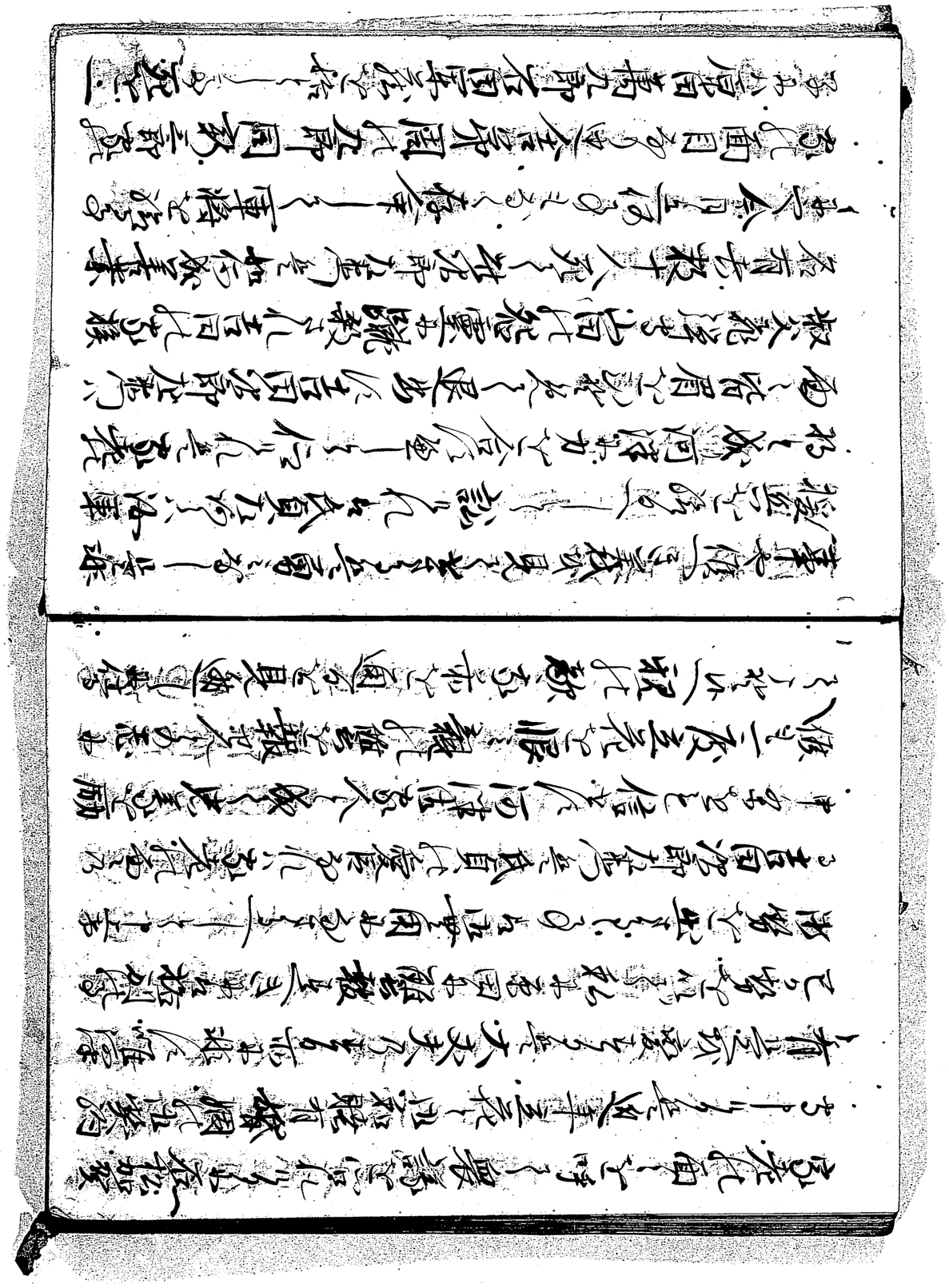
建立宮殿修造仕べくやと思ふ所に近日舟海漕全
と広大なる事を量しむへしと浅からぬ
其夜氏貞の夢に三女神枕上に立給ひて
異国船来る宝あるよしを
あて給ひ尽しに何かけくらん
と告給ふと見て夢覚て氏貞喜び思ひ給ひて
三社に来て謁し庭に猶更安全を祈られける同年冬に
蛮船宗像江口の湊に流来る石松周賀此由を
中に参る氏貞の夢の告に等しければ大いに悦給ふ

因賀世命〳〵形ハ廣狹ハ斗ハ長
サ八間横十五方〳〵船中老人と呼ハ長
積ハ〳〵ハ敗寶紬布ハ京師米千万と云ハ
と云ハ者ハ博多津奥州ハ紙屋ハ
ハ富者ハ〳〵金銀ハ交易ハ〳〵
と云ハ三社ハ修造ハ經營ハ
世ハ〳〵ハ也ハ不思議ハ神德有難ハ
宗像ハ立花ハ敵ハ郡稲光ハ倉庫合戦ハ
愛宕ハ山ハ城ハ河津堤津と云者ハ西ハ乃

妹尾ハ前ハ六内殿ハ香月ハ即隆光ハ置く
立花ハ押〳〵ハ〳〵ハ隆光金吾ハ乱ハ
長州ハ大宰司氏男ハ自害ハ
領地ハ河津堤津ハ押領〳〵ハ大友ハ筑前ハ屬
ハ妹宗像新屋ハ郡境ハ地ハ
有ハ人立花ハ戸次入道道雪ハ流〳〵ハ河津ハ
宗像ハ宮司ハ志賀ハ入ハ
剃ハ小野和泉ハ筑紫三河守安部十時ハ
西ハ妹ハ七重八重ハ夜ハ攻ハ

河津下野守祐光と一戦仕候て自害仕候子息隆
[illegible]と城を落し郡司職を相続仕有間
宗孫氏貞儀巧れ候に吉田次郎左衛門と云者有是を
頼み氏貞仕人を願れ氏貞領掌し
稲光村の水田を拾余町を切り開き
城主元利法貫を無二に大友方へ忠義を通
申し親交深し通年毛利の所地作元不熟
の汎に粮米を乏き故兵粮を立花殿へ道者
[illegible]兵粮数百石稲苅数百疋借申せ吉田帰
国を待て

馬を奉行し[illegible]城へ送る吉田帰国
祐光を待て度々[illegible]夜迄[illegible]河津修理亮
是を聞き急き芝の嶽へ来り吉田次郎左衛門
氏貞へ上る是を迎雪[illegible]城より粮米を送る
其[illegible]吉田帰国
稲光村を面[illegible]也牡蠣[illegible]五十余[illegible]
帰国を対[illegible]を争う天[illegible]
を活りは[illegible]帰国を待[illegible]
[illegible]度度[illegible]氏貞壮健如何[illegible]



交小摂津守為市佐衛門尉ハ相随ふ軍ハ吉田
勘解由左衛門尉原義元貞延を始め
都合七騎百五十騎天正九年十月十七日薩摩嶽を
進発し河津掃部助と延ハ俄に友池邑に堤を築き
若宮川を堰入る水を湛へ侍る立花勢
是を見て義ハ知らぬ所ハ川岸を延て
小舟を浮け兵を橋を渡る者ハ更に
川向を見渡せハ森乃内に木瓜の旗を
流し扨上吉清の軍兵三四拾騎半程
高田

源左衛門さつと見て豆を拾い蜘蛛の巣を
見て定て京侯へ援を乞ふ
馬を仕て告援兵を乞ふ立花殿ハ
ハ由布雪可安高宮書を大将として七騎
五十余騎掃部助へ
立花へ清辛狐下知しける牡蠣侍の策しると
見へたり如何程に
延入を侍て由布七騎陽ろけ渡を
五十余騎ハ吾れ勝ちんと渡り

を高き所に駈上り宗信を見れは援兵を二手進ましめんと又若
党を所々に由布七郎が馬の様子を熟見なすを放
つ矢に河津も正中を射通されて馬より逆様に落
由布下りて首を取る故河津が勢ひ主を失ひ権
余しを何のおんとなき一同に討死し宗信が宮永
村に着ける所河津兵を悉く討死なし告来る宮永
城主吉田孝之助の館にあつまりて軍評定しけるに
此度の戦は余儀なき故の文を反し伴ひ押寄んや
なんと衆議一匹集まる所に吉田孝之助酒肴を

出し先一盃づつ酌交し死後名誉残さんと同時
一盃は酒に鳥をつくへしと言ひ誌に了りて
しりぞき敵は多勢を頼みに掛かれ是次郎太夫が舎弟周
九郎に向ひけるは明日の戦は無益の支
に刺されなは其跡なくして上する事なれは生て
帰りても面目なし一同討死を致すへし宮永城
に入らせ給ふ孝之助情弱の者なれは味方を救ふ
事能はずして取て返し戦ふところに討たれ
る一門良従七十余騎憤死に集まつて駈入は由布

十時と原田と爰にて先達て戦ひける吉田周防
九郎同新三郎吉田左近庫田弟九郎修り
痛く攻戦ひ一旦討死仕る吉田次郎左衛門同
勘解由左衛門殿程と勇氏を奮まて大勢に中
を通入し中を明く敵を面しける如何ともしがた
原田源右衛門は迫付討死なる河津父子の逃慌を
報し草葉に隠れ居たりし悦を及思へも其人を
見届て弟八郎鎧着て武者と成て茲に
討死果河津に其内五人の者武者二十七騎
寄て討たり者は敵是を見て牡者は太刀
打ぎ八味方大勢討て一時に射倒す也
陣如く活方に射倒れ兵を両人の弟五郎義の
元れ如く兵弟金蔵は有れ共生死を立て立
くしとしかく迫打て酒食をしる者
立花宮方の山を面にして弟候れ者告れ
兵法物も夜敵に吉田次郎左衛門宗徒れ勇者猛
乃小倉原に討て出て陣を入乱て攻戦立花
勢無河津の戦ひ方ぬ川を渡て来れ

馬物具をとり儒学をれ大坂市を討ん[illegible]
[illegible]吉先駆[illegible]下知し[illegible]
焼拾四五所をつけまりけるを然る所を構へ[illegible]
付[illegible]焼を力攻浮[illegible]立花勢入替り入替攻寄
[illegible]次郎左衛門心を極く思[illegible]白勢を焼叶
[illegible]終を討死[illegible]殘[illegible]
思ひ乃儘を戦ひ[illegible]皆一所を討死[illegible]
天文年中より吉田の一族皆山田[illegible]霊[illegible]為
頃[illegible]吉田[illegible]次郎左衛門一[illegible]

不[illegible]軍[illegible]氏貞を勸め[illegible]
面目[illegible]吉[illegible]
[illegible]山田[illegible]霊[illegible]常[illegible]吉頃[illegible]人
[illegible]

氏貞逝去吉事

天正拾四年二月中旬より氏貞[illegible]例[illegible]次第
重[illegible]
禱療[illegible]
日[illegible]裏[illegible]三月四日[illegible]都[illegible]

神供大和時氣未多此淫田出植賜[illegible]諸[illegible]
[illegible]伊[illegible]伊[illegible]我死極り如[illegible]出男子[illegible]
[illegible]家[illegible]と[illegible]者[illegible]草苅[illegible]人元和元龍小路
[illegible]娘今年始[illegible]懷妊[illegible]若[illegible]子男子[illegible]我
血脈[illegible]小富[illegible]内[illegible]牡[illegible]知[illegible]有[illegible]五十
[illegible]継子[illegible]事[illegible]及[illegible]各[illegible]継[illegible]
[illegible]又三社[illegible]大神宮神職[illegible]六淫田中務少
輔氏益[illegible]司[illegible]せ[illegible]外別[illegible]事[illegible]
水[illegible]口瀬[illegible]面[illegible]洗[illegible]

明々闇々　五十二年
即会還去　搔着梵天

[illegible]
[illegible]今九州大乱[illegible]
内兵氏貞[illegible]
[illegible]外[illegible]
[illegible]朝夕[illegible]
[illegible]
即心院

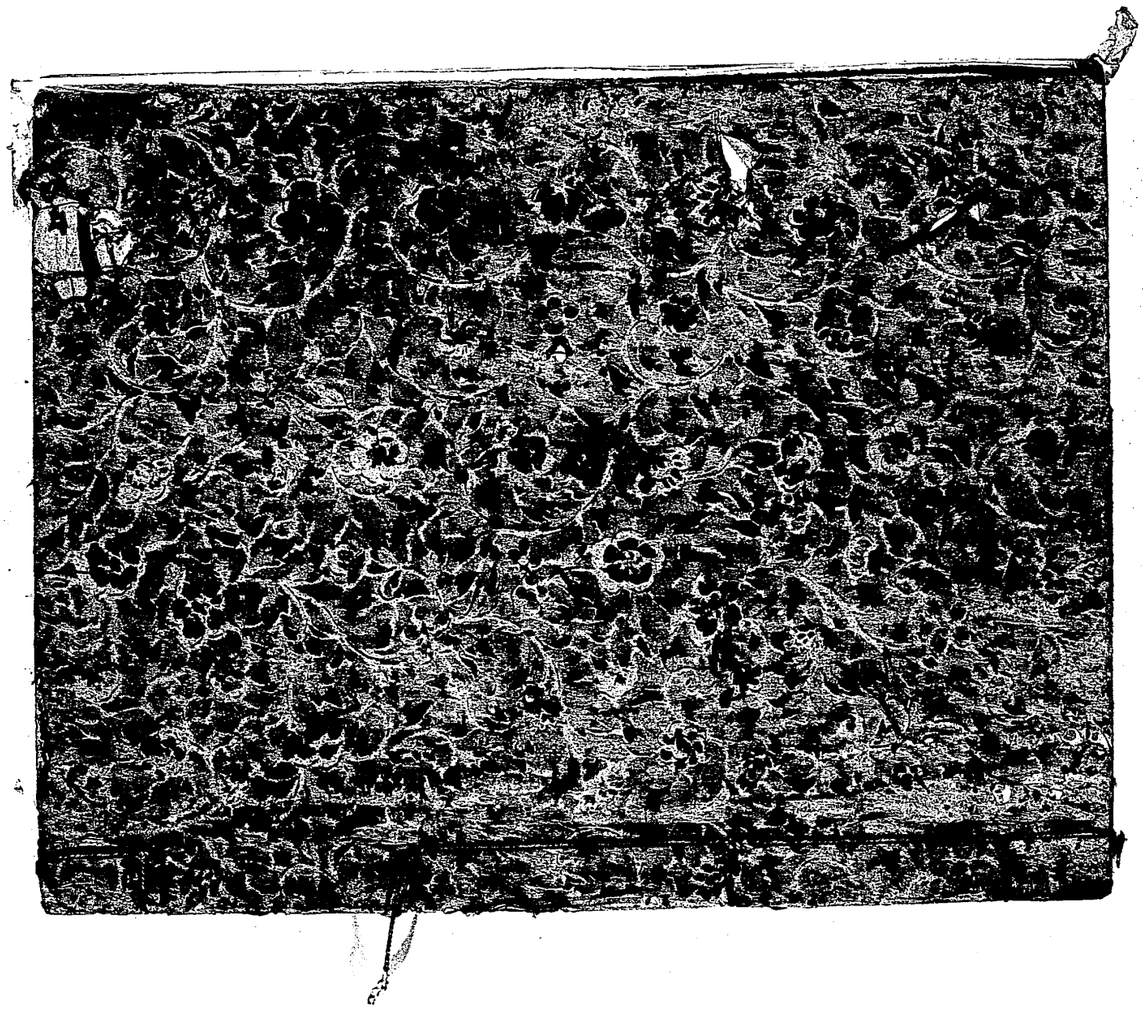
秀吉公[illegible]天正十五年三月豊臣
[illegible]小早川隆景黒田

孝高を筑前に封ずるや西征に従ひ其地の宗像氏
を召して問ふ惟安泊婆を既にして氏滅秀吉公
渤海に氏負を遣はされ実を十二に分ち秀吉公
薩摩に帰下の時宗像の家臣を諸侯中に
加へ給ふ内陣に後筑前内にて高麗と宗像
乃家臣なりけるを以て宗像氏なる年と
山田社祭堂に於ておかれし御神楽辛去
に悪く門葉も滅し無衆に占勘泊婆
深田後三四人に残り居る宗像氏なる系と案

するに大宮司氏元祖清氏より氏負に至り社務七
十九世に傳れしに人しかも再任に成ること三度
或は四度社務に就きたりしは実に五十三世なり
延喜十四甲戌年より天正十四丙戌年に至る日数
六百八十年なり宗像氏なる亡び血脈断絶し
家臣に対奔族と称せるの天命乃自然に
しれる是偏に氏男に室男女に君達と返
落しの報しなる不仁不義に罪いなる通
もしや是以て世に俗士欲を捨て

義を就事と知て震慄(フクテル)し戒を踏(ツ)めるを

宗像舊事記大尾

文化十三丙子永夏書寫

永島直賢